

The Ushiku Times

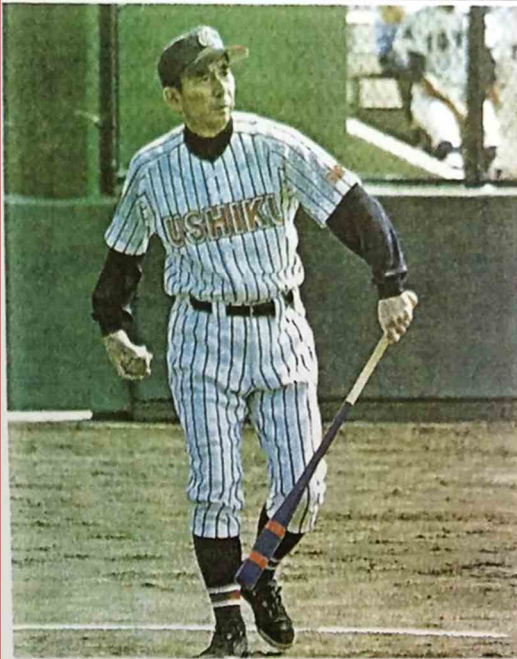
NO. 66

Jun 1, 2018

茨城県立牛久高等学校

校長室から

2018年(平成30年)5月28日 月曜日 茨城 新聞 第1版



英語教諭。1983年に開校した土浦湖北高の監督を

96年から監督として中央

木口校長は元高校球児で

皮切りに、銚田一高ではコ

校長が試合前のシートノックでグラウンドに立った。牛久市の運動公園野球場で27日行われた牛久市内高校野球大会。かつて中央高野球部監督として同校を初めて夏の県大会ベスト4に導いた実績を誇る、牛久高の木口邦夫校長(59)が、ナインのためにバットを握った。来年の定年を前に実現した最後のノック。「高校野球人生」は一足早く、その幕を下ろした。

牛久高 木口校長 志願、10年ぶり実現

定年前に最後のノック

高校野球人生最後のノックに向かう牛久高の木口邦夫校長
〓牛久運動公園野球場

後にもう一度バットを握る

高を率い、2005年春の県大会でベスト8、同年夏の県大会で強豪霞ヶ浦高を破り4強入りを果たすなど手腕を発揮した。同校を最後に野球から離れ、現在は県高校文化連盟会長という、野球とは180度違う世界で活躍している。

「てみたい」との思いに駆られるようになった。市内高校野球大会は監督以外でもノックができる決まり。監督に思いを打ち明けると快諾が得られ、10年ぶりのノックが実現した。

この日、再びユニホームに袖を通した木口校長は、持ち時間の約半分の3分間、内野手相手にノックを行った。六つの打球をさばいた主将、古川聖二塁手(2年)は「校長が夏の大会ベスト4の監督だったことは聞いています。いつも自分たちを熱く応援してくれて。ノックに込められた先生の思いを知って感謝の気持ちでいっぱい」と話した。

木口校長は「いざバットを握ってみると監督時代と変わらず淡々とノックしている自分がいた。野球部監督になりたくて高校教員になったという、原点に戻った気がする」と、高校野球人生を締めくくった。

(藤崎和則)

このお膳立てをしてくださった本校野球部の監督をはじめ選手のみなさん、また根本 洋治牛久市長並びに牛久市野球連盟関係者の方々に感謝申し上げます。さらには、本来始球式は市長が行う予定でしたが、急遽私が行うこととなり何とかストライクを投じることができました。

本当に、ありがとうございました。